

■ Soundcraft Vi Series V4.8 新機能のご紹介

V4.8.1.217a 新機能のご紹介

V4.8.1.217a はバグフィックスを主な目的としたメンテナンスリリースです。

◆バグフィックス

- ・ FLW モード変更前にグローバル・プリ / ポストモードだった場合、AUX VCA モードにならないバグを修正しました。
- ・ ペア・チャンネルを SOLO にした場合、その左チャンネルも SOLO になってしまうバグを修正しました。
- ・ ステレオ・バスからモノラル・マトリクス・バスにルーティングした場合、L チャンネルのみマトリクス・バスにルーティングされるバグを修正しました。
- ・ IP アドレスセットアップ時に起こるバグを修正しました。

V4.8.0.214a 新機能のご紹介

◆信号処理能力の向上

- ・ 32 ステレオ・バスが利用可能になりました。
- ・ 16 ステレオ・マトリクス・バスが利用可能になりました。
- ・ チャンネルのインサートポイントに Post Fade が追加されました。
- ・ Gate/Duck がバスの信号をトリガーに動作できるようになりました。
- ※ Vi2/4/6 で 32 ステレオ・バスを利用する場合、SCORE DSP カードが 3 枚以上必要です。
- ※ SCORE DSP カードを 3 枚搭載したシステムで 32 ステレオ・バスを利用した場合、最大ミキシングチャンネルは 64 チャンネルとなります。32 ステレオ・バスを利用し、96 チャンネルのミックスを行う場合は、SCORE DSP カードが 4 枚必要です。

◆サーフェスのインターフェース向上

- ・ AUX VCA モードの ON/OFF が可能になり、AUX VCA モードが ON の時にフェーダーグロウの色が白に変わるようになりました。
- ・ ビストニクス・タッチスクリーン上のチャンネルラベルの色が選択可能になりました。

◆バグフィックス

V4.7.4.200 新機能のご紹介

V4.7.4.200 はバグフィックスを主な目的としたメンテナンスリリースです。

◆Vi2/4/6 における動作の安定性が向上

V4.7 新機能のご紹介

◆Vi4 の運用可能チャンネルが最大 96 チャンネルまで拡張

◆Vi4 と Vi6 の Show データの互換性を改善

Vi4 のチャンネルレイアウトを Vi6 と同一フォーマットに変更し、互換性を持たせました。

◆サーフェスのインターフェース向上

- ・ EQ のバンド幅調整を Q もしくはオクターブで実行可能になりました。
- ・ Delay 値調整をミリ秒、メートル、フィート / インチで実行可能になりました。
- ・ Show リストの表示をロータリーエンコーダーでスクロールできるようになりました。
- ・ Show リストを作成日時もしくはアルファベット順にソートできるようになりました。
- ・ オシレーターが ON になっているチャンネルの、ハイライト表示の方法を変更しました。
- ・ Noise Gate の “INV” スイッチの名称が “DUCK” に変更されました。
- ・ Vi1 の “Global Pre/Post” スイッチの名称が “Set Pre/Post” に変更されました。

◆“Virtual Vi” が Vi1 に対応

◆バグフィックス

- ・ Show データを保存した際に作成日時が正しく保存されないバグを修正しました。
- ・ 固定 IP 設定時、192.168.1.xxx の IP を振れないバグを修正しました。
- ・ ワイヤレスルーターの IP を 192.168.1.xxx に設定すると、DSP Core に接続できないバグを修正しました。
- ・ コンソール起動時にエラーメッセージが発生するバグを修正しました。
- ・ ネットワーク接続が外れた時にコンソールが再起動するバグを修正しました。

◆その他

- ・ ViSi Remote で Vi4 96 チャンネルミックスが可能になるのは、ViSi Remote V1.1.8 からです。